

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>グループホームにおける地域密着型サービスの意義を職員と共有して、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係強化する理念を作り上げている。</p>	<p>えんがわサロンと名前を付けた介護教室を開き、すめらぎ地区の皆さんを送迎付きで参加して頂いている。</p> <p>民生委員会にて認知症の人達の接し方の話をしたり、地域の集まり”かいごサロン”に参加して老後の生活の話し合いのアドバイスをしている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念は管理棟玄関の正面等に掲示されている。また、毎月のミーティング会議で周知し、具体的なケアについて意見の統一を図っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>スローガンを訪問者にも解る場所に大きく掲示している。運営推進会議にグループホームの役割が理解出来るように活かしている。うめだより、パンフレット等を役場、民生委員等に配布している。</p>	<p>徘徊があった時、警察、消防、地域の人々に協力が得られるように緊急マニュアルを作成してある。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ホーム周辺の農家より、花の苗、野菜を購入している。</p> <p>米の購入契約を近所の個人店と農家(まめの会)と行っている。</p>	<p>畑作りを近所の人々にも応援して貰えるようにしていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の多くのイベントに参加出来るように係りを決め取り組んでいる。</p> <p>GHの情報を村の広報誌に載せたり、診療所の掲示板、公民館、学校等に掲示させて貰いGHの存在、認知症を理解して貰い交流がスムーズに出来るようにしている。</p>	<p>地域の災害時、GHの職員の介護力とGHの施設を活かさせていただけるように努めていきたい。</p>

グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>えんがわサロンを通じて、要介護認定の受け方、介護サービスの受け方、種類、施設の内容等を解りやすく説明している。</p> <p>地域住民との防災協定が結ばれている。</p>		<p>地域の人々が気軽に立ち寄れるグループホームにしていきたい。</p>
<p>3. 理念を实践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の評価での改善事項は、みんなで話し合い改善して、サービスの向上に活かしている。</p> <p>実施する意義は全員理解している。</p>		
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>役場職員、民生委員、家族代表が交代で2名ずつ参加して話し合い、意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>地域の人々に参加を呼びかけ(公民館長、学校長、ボランティア担当教師、農協職員等)地域に密着したグループホームにしていきたい。</p>
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>役場職員は2名運営推進会議に出席して貰っているが、運営上不明な点がある時は、役場に行ったり、電話等にて入居者のサービス向上につながるように、対処を検討している。長野市とも同様にしている。</p>		<p>平成20年9月に長野市の指定事業所になった。長野市の介護保険課の職員の参加を呼びかけていきたい。</p>
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>善光寺平グループホームねっと会議に1回/2ヶ月参加したり、外部研修に参加したりして、ミーティング時に話し合っている。</p>		
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加したり、ミーティング時に虐待の具体的なケースについて話し合い、お互いに注意しあっている。</p>		

グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>訪問調査、ホーム見学後、管理者と職員との十分な話し合いにての受け入れ体制は出来ている。</p>	<p>管理者、職員は利用者や家族との十分な話し合いが出来ている状況にあるので、理解納得を図っていききたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明に明示してある。 各ユニットの入り口に苦情受付担当者の名前を掲示し、ご意見箱設置し、苦情処理簿作成、運営会議に交代で参加している家族の声を聴いている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>体調変化については電話にて連絡をしている。 金銭管理については、実費分として領収書を送り請求している。職員の異動等は文書にて知らせている。</p>	<p>職員のにこやかな顔写真を掲示し、名前と顔がわかるようにしてある。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に意見等を伺っている。 重要な事は管理者が直接伺い、ミーティング時に話し合い、反省点は次月に活かしている。 インターネットにホームページを開いている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング時に職員の意見を聞き、職員と取り組んでいる。また、併設施設の運営会議においても、提案して取り組んでいる。</p>	

グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	2ユニットのメリットを活かし、協力し合っている。急な欠勤については、代替や超過勤務などで対応し、入居者にしわ寄せが行かないように心がけている。		
18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人内の異動はグループホームに必要時のみであり、なじみの関係を大切にしている。異動時は静かに変わり、ダメージを防ぐ配慮をしている。		新人職員に対して、介護マニュアルに添い担当職員と共に業務を行い、入浴介助は一日一緒に、状況把握と入浴方法を習得できるようにしている。力量に応じて必要時は再度行っている。夜間勤務はベテラン職員と二人体制で2回行い、習得状況に応じ必要回数を増やしている。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は1回 / 1年受講できるようになっており、研修報告書を作成して、ミーティング時に発表したり話し合っている。併設施設の研修に参加したり、休日を利用して研修に参加している。		内部研修参加の職員の意識向上を図っていききたい。研修計画を立て、外部研修の機会を多くしていきたい。資格取得等職員のスキルアップを図っていききたい。
20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	善光寺平グループホームねっとに参加して、情報交換を行っている。		他のグループホームを見学予定。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員はお互いコミュニケーションが良く取れているため、互いに話したりしている。管理者は夜勤時に聞いている。グループホーム全体の事は、ミーティング時に話し合っている。また、事務長に相談して解決できるようにしている。		グループホームの親睦会を3～4 / 1年行っていきたい。

グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>状況報告した時に具体的な方法のアドバイスを受けている。</p>		<p>理事長代行と藤美会、グループホームの運営方針と話す機会を多くして欲しいと進言していく予定。</p>
<p><b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人、家族が困っている事を家族や民生委員、在宅のケアマネより良く聴き、受けとめている。</p>		<p>在宅ケアマネ、民生委員等関係業種とのコミュニケーションを良くして、情報交換にて詳細に把握して、本人の思いを受け止めていきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>訪問調査時やグループホーム見学時によく聴いて受け止める努力をしている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>在宅のケアマネと情報交換を多くして、必要しているサービスは何か検討をして、本人や家族が納得できるように対処している。</p>		<p>特に在宅のケアマネと情報交換を多くして、本人が安心できるようにしていきたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>自宅訪問して、職員の顔を覚えてもらったり、家族とともにグループホームの見学の回数を多くして、雰囲気徐々に馴染めるようにしていきたい。</p>		<p>見学の回数を多くして、お茶を一緒に飲んだり、食事を取ってもらえるように、働きかけていきたい。</p>

グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の得意な事を把握して、教えてもらったり、手伝ってもらったりして、お互いの関係を築いている。注意する時ははっきり、解り易い言葉で注意して、アフターフォローを大切にしている。</p>	
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ホーム便りに行事、外出の案内をしたり、面会時お茶や食事を一緒にしていただくようにしている。食事は300円にて提供している。</p>	
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>本人と家族の双方に充分話を聴き、誤解があった時等は、不足部分は補足して、誤解が解けるように努力している。</p>	<p>家族の問題はデリケートな問題であるので、窓口をひとつにしてから、情報の共有を図るようにしている。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近所の人や友人が来易いように、明るく挨拶をしたり、茶を一緒に勧めている。</p>	<p>本人が大切にしてきた馴染みの人へ、連絡が取れるように電話や手紙を書き、一部介助等の支援を継続していきたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>食堂の席を仲の良い人同士にしたり、孤立しがちな入居者には、職員がフォローして淋しくないように支援している。</p>	

グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	対象者がいないため、取組んでいない。		ホーム便りを郵送したり、家族やケアマネと連絡を取り合い、情報交換をしていきたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接時に本人や家族からの意向を把握している。職員とのコミュニケーションが良いため、話の中より本人のいろいろな思いを理解している。		
34	これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報活用により、介護サービスの利用経過や、アセスメント用紙に今までの生活歴や好む事、趣味、得意な事を記録して、これまでの暮らしの把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族、民生委員、ケアマネと情報交換を行い、把握するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	プラン作成時は必ず本人、家族に意見を聞き、職員達の意見を聞き、担当者とカンファレンスを行い作成している。必要に応じ、併設施設の看護師、リハビリ担当、栄養士の意見も取り入れている。		

グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～4ヶ月毎に見直しているが、状況変化時は随時見直し、家族とも連絡をとり、状況に即した計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング表にケアの実践、結果、心身状態の変化等を記入して、見直しが必要時に活かしている。 個別に日常の状況(バイタル、排便、入浴等)を具体的に記録している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じ対応困難な時は、定期受診や市役所等への支援を行っている。 併設施設よりリハビリ関係、栄養士の指導を受け、より安全な健康な生活が出来るように支援している。		併設施設の看護師に相談、処置して貰った事を主治医に報告して、医療面での充実を図っている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員会に出席してから、コミュニケーションがよく図れるようになり、本人の事、家族の事に対処法を検討したりしている。ボランティアは随時受け入れ、行事を手伝って貰ったり、楽しい一時を共に過ごしている。		中学生、高校生の体験学習も受け入れており、継続していきたい。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところ、意向がないためしていない。		本人の意向を把握するため、信頼関係を深めていきたい。



グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	していない。		必要に応じて、協働していきたい。
43 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者の主治医でもある中条村診療所の医師に全てを任せている。往診は4回/1月ある。歯科治療は斉藤歯科医師が併設施設に来設時に受診している。		急な受診は職員が対応し、定期受診は家族が対応している。診療所の医師、家族、事業所との連絡は良く取れている。
44 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	診療所の医師、新町病院等の医師に相談し、診察や治療を受けている。		白馬の神城医院に家族と受診もしている。
45 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設と24時間連携が取れている。また、往診時や電話や診療所に行ったりして、医師や看護師に相談している。		併設施設の看護師は1時間/毎日程度、入居者の状態や職員の相談に応じてもらっている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と情報交換を行い、併設施設の看護師、リハビリ担当者より指導を受け、早期退院に備えている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の方針を個々の家族と話し合いをして、ミーティングで職員と情報を共有している。状況が変化した時、家族と医師と話し合い、方針を共有するようになっている。		

グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	高齢化、重度化していく中で、併設施設での終末期ケアの学習会に参加したり、入居者の死亡を発見したときの対応の学習会を行っている。		終末期ケアの併設施設や外部研修に参加したりして取組んで行きたい。 職員の意識を高めるため、アンケートをとり、不安を取り除いたり、マニュアル作成をしていきたい。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人や家族、ケア関係者間で情報交換や十分な話し合いを行っている。本人の思いも大切にするため、家族や民生委員からの協力を充分得ている。 本人が困らないように配慮している。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合った声かけや対応を行っている。妄想やつじつまの合わない会話でも否定せず、受けとめている。記録時も充分注意している。		職員の守秘義務の徹底を図るために同意書を作成し記入している。毎月のミーティング時話し合い、徹底を図っている。入所簿を鍵のかかるBOXに保管しプライバシーを損なわないようにしている。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外出や外食でのメニュー、飲み物など、入居者が決められる物は一人ひとりに選んでもらっている。		

グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状況を見守りながら、その人に合わせた声かけや対応を行っている。 その人らしく生活できるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴後の衣類は本人と一緒に準備し、併設施設の出張美容院(入居者のお気に入りの美容師)へでかけ。希望時白髪染めやパーマも行っている。 白髪染めに来る家族もいる。		
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いて、好きな物を作っている。 パン食の回数が増えている。		
55 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒、タバコは原則禁止している。アルコール依存症以外でビールの好きな入居者には、家族の希望もあり、時々小さな缶ビールを職員が付き添い、楽しんでもらっている。飲み物やおやつは入居者の好みに合わせている。		正月は一口くらいのお酒で乾杯をしたいものと検討中。
56 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを理解して行っている。排泄の失敗があっても、職員でカンファレンスを行い、ポータブルトイレへの定時誘導等、自立支援につなげている。		

グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴担当者が誘導から全てを行い、一人ひとりの入浴スタイルに合わせてゆっくり関わり、楽しむように支援している。 日替わりで薬草を楽しんでいるが、冬至にはゆず湯、りんご湯も楽しんでいる。		近くに福祉風呂があり、利用している、好評なので春頃利用できるように計画している。
58 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は身体を動かすようにするなど生活リズム作りをしている。昼夜逆転になりそうな入居者には、夜間の様子を調べ、カンファレンスし、医師に相談して眠剤処方にて生活のリズムを調整している。		不眠を訴える入居者には眠剤の内服時間を検討して、良眠出来るようにしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おぶっこ作りやホーム内の花、盆栽の水やり、食器洗い、洗濯干しなど、個別に役割があり、その人にあった生活活動を行っている。		
60 お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多少の金銭を持っている入居者がおり、使い道等にアドバイスしている。職員は大切さを理解している。		
61 日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	好天時には日光浴や外気浴を兼ね、玄関に出たり、個別に買物、併施設への散歩をしたり、行事のある時は出掛けている。		温かくなったら近所の散歩を多くしたい。

グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見、七夕、紅葉狩り等家族の参加を呼びかけ、外出の計画を支援している。		
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は常時かけられるようになっており、相手呼び出すまで支援したり、手紙は希望時代筆したりしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者に明るく挨拶したり、入居者の状況をはなしたり、ゆっくり出来るように椅子、茶を提供したりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設の拘束マニュアルを参考にして、理解している。家族の了解のもとに時間的に短くする等、拘束しない方向に取り組んでいる。1回/1月の拘束委員会に参加して、ミーティング時に共有している。		
66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室は鍵を掛けないで自由に入出りできるようになっているが、時間帯や外気温の意識が出来なく、帰宅願望が強く外に頻繁に出たがる入居者の居室は施錠している。		寒い時季であり、無断外出による事故防止のため、帰宅願望の強い入居者の居室は施錠している。温かくなったら、職員の見守りと声かけで鍵にかかる時間を短くしていきたい。

グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりにあった声かけや対応を行っている。本人の了解を得て車イスに鈴をつけ、所在確認し、安全に配慮している。夜間も鈴、笛等にて様子の把握をしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は事務機の引き出し、洗剤は倉庫、ハサミは事務所の戸棚の上、包丁はキッチンの引き出し等保管場所を決めており、本数も確認している。裁縫箱の針、ハサミも職員が管理している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災管理者研修に参加して報告したり、事故転倒報告書に記入して状態分析し、ミーティング時に対応法を話し合っている。併設施設の会議に参加して再発防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法の講習を受けている。緊急時のマニュアルを作成してある。		心肺蘇生法を学ぶ機会を設けたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜の防災管理者を決めてある。避難経路図をそれぞれのユニットの見やすい場所に貼ってある。防火訓練を行っている。		地域の人々の協力を得られるように、運営会議で働きかけていきたい。消防、警察に働きかけていきたい。
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時の説明書の中のお願い事と“重度化した場合における方針”にて協議して意向を尊重するようにしている。高齢者が多いので、体調変化時や入院、退院後には家族と話し合っている。又、医師同席の上話し合ってもいる。		

グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>体調の変化時はバイタルチェックして、併設施設の看護師に相談、主治医に相談し、その情報をみんなで共有して、対応している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>全入居者が服薬しており、名前記入のファスナー付きの袋に入れて、保管場所を決め、誤薬に注意している。薬の詳細はファイルして目的、副作用は理解している。</p>	<p>くすりの事典を利用して、薬について学習している。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>排便チェックにて便の性状を把握して下剤をコントロールしている。予防のため、繊維質の野菜を多く取り水分摂取も多くしている。腹部のマッサージ、レク、体操等身体を動かす様に取り組んでいる。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後うがい、又は歯磨きを各居室で行っている。定期的に洗浄剤にて義歯は消毒している。歯科医より指導を受けた口腔ケアは継続している。</p>	<p>自力での口腔ケアが困難になってきている。一部介助したり、磨き残しがどうかチェックしている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士作成の献立を参考にして調理しているため、摂取カロリー、栄養バランスは良い。体重測定を1回/1月行い、食事摂取量を見直している。多めの水分摂取を促しているが、必要時、随時本人の好む飲み物の支援をしている。</p>	<p>入居者の食べたいものを美味しく食べ、満足して貰えるようにしていきたい。</p>

グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成してある。インフルエンザの予防接種を行っている。 研修や保健所からの資料を使用して、予防、対応について勉強している。手洗い、うがいの励行を入居者と職員と共に行っている。		家族、外来者にての消毒とマスク着用を実施して貰えるように声かけをしている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎週火曜日に冷蔵庫、土曜日に倉庫の掃除を行い、キッチンの掃除と調理用具の消毒は毎日行っている。献立に添って食材を注文し、新鮮な食材を使用して賞味期限を確認している。		地元農協より、新鮮な食材を注文して、配達して貰っている。

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわり、建物の周囲には、野菜や花を育てており、家庭的な雰囲気作りをしている。 木を使ってある建物は周囲と調和が取れている。		えんがわサロンに参加してくれた近所も人に畑作り、花つくりの声かけをしていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアーにオープンキッチン、食堂、ホールがあり、食事の準備の音やにおいを感じられ、生活感がある。トイレ、浴室は広く、行き来がスムーズに出来る。光はブラインドで調節出来、入居者の状態に合わせたトーンで話しかけている。バリアフリーである。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットの中央には、大型テレビ、ソファがあり自然と集まり談話できるようになっている。玄関ホールの一隅にソファと炬燵がある。炬燵で新聞を読んだり、職員と一緒にお茶を飲んだり、思い思いの場所で過ごす事が出来る。		



グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や自分の作品を貼っている。 テレビや家具を持ち込んだりして、本人らしく、居心地良く過ごせるような工夫をしている。 インコを持ち込んだ入居者もいる。 職員と一緒に世話をしている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節は巡視時と昼間はこまめに行っている。 換気は適宜行っている。 施錠時は天窓で換気をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体がバリアフリーになっている。トイレ、ホールには手すりが付いている。 玄関には腰掛けて靴を履けるように、椅子を置き、入居者の安全な環境作りがされている。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのわかる力を把握しており、声かけや見守りを多くして、自立支援をしている。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	野菜作りをしたり、草取りが出来るように、建物の外まわりには畑がある。畑からの転倒防止のため、レッドロビンの柵を設置してある。ベランダで布団干しが出来る。		

部分

グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に つけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホームすめらぎ(菜の花ユニット)

項目		取り組みの成果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・地域密着型のグループホームを目指すため、えんがわサロンを1年に6回開催し、地域の皆さんにグループホームに来て頂き、気軽に立ち寄れる施設にしていきたい。

・家族との関係を良くするため、特変時だけでなく、一ヶ月に1回生活状況を話したり、グループホームに意見を出しやすいように(例:職員の入居者の皆さんに対しての言葉遣いはどうですか?)具体的に記入して用紙を郵送し、送ってもらうようにしている。継続していきたい。